令和６年度　学校経営方針等

八戸市立中沢中学校
校長　齋藤　　浩

教育方針等

１　教育目標

「自ら創造し、共にたくましく生きる生徒」

努力目標

（１）互いに尊重し、自他を活かす
（２）志をもち、進んで学ぶ
（３）強い意志をもち、粘り強くやり抜く

２　学校経営の方針

「教育は人なり」と言われるように、教育に最も必要なのは人間性であり、人と人とのより良い関係をつくることである。また、教育は人のためにあり、社会のためにあると考える。だからこそ、その根幹をなす学校教育は、人を大切にするものでなければならないと思っている。生徒、保護者、教職員、地域の方々など本校に関わるすべての人が、心身ともに健康で持続的に幸福な状態（ウェルビーイング）であるとともに、生徒一人一人が予測困難なこれからの時代をたくましく生きていくための資質を養うことを目指した教育活動の実施に努める。

①一人一人の生徒が志を高くもち、主体的に物事を考えて実行し、これからの予測困難な社会を生きていくために必要な力を身に付けられるよう教職員が協働する。
②教職員は、教育課程の計画的な実践を基本としながらも、時には状況に応じながら無理なく、そして柔軟に組織的に対応する。
③保護者・地域との緊密な連携を図りながら、各教科における基礎学力の定着、家庭での基本的な生活習慣の定着を目的とした家庭への啓蒙、自己マネジメント力を目的とした意識改革を柱とした教育活動を展開する。
④青森県教育委員会、八戸市教育委員会の学校教育指導の方針を踏まえたうえで、カリキュラムマネジメントのもとに教育指導の充実を図るとともに、教職員の資質の向上を目指す。

ア　生徒、教職員にとって安心・安全な学校づくり

・生徒相互、教師と生徒との温かい人間関係を基盤にした学校・学年・学級づくりに努める。
・安全点検、安全管理を徹底し、安全確保や校舎内外施設設備の環境保全に努める。
・報告・連絡・相談をスムーズに行い、必要時にはチームでの迅速な対応を行う。
・各種たよりやホームページ、学校行事やＰＴＡ活動等の機会を通して、学校と家庭・地域社会との信頼関係を深めながら、家庭や地域社会の信頼に応える学校づくりに努める。

イ　確かな学力をはぐくむ学習指導の充実

・生徒の実態を踏まえながら、基礎・基本の確実な定着と活用を図る指導を工夫する。
・実践的な指導力向上のための校内研修を充実させ、生徒が主体的に学習に取り組み「わかった！できた！身についた！」が実感できる学習指導の工夫をする。
・生徒が自分の考えを表現し、学び合いを通して考えを深めていけるような指導を工夫することにより、思考力・判断力・表現力を高める。
・生徒が「自ら学ぶ力」を身に付けるための指導の在り方を教職員が共有し、手立て等を具体的に示し計画的に指導を行う。

ウ　豊かな心をはぐくむ教育の推進

・道徳の時間の指導を充実させるとともに、学校の教育活動全体を通して道徳性を養う。
・感動や喜びを味わえる様々な体験活動を充実させ、体験を通して、自己の生き方を深く考えさせるようにする。
・自他の生命や人権を尊重する教育を推進し、互いに協調しながらよりよく生きようとする姿勢を育てる。
・ひたむきに物事に取り組める、努力できる能力を育てる。

エ・自己マネジメント力の育成

・生徒自らが、自分の特性等を理解する。(自己理解を図る。)
・自分の健康・感情・行動を管理させることで自己成長を図る。
・コミュニティスクールを実践する中で、キャリア教育の充実を図る。

オ　健康・安全指導の充実

・家庭や地域社会と連携し、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けた生徒を育成する。
・防災教育を充実し、危険を予測し、安全に行動できるような判断力や危機回避能力を育てる。
・生徒の心身を高める部活動を推進し、意欲や体力の向上、人間性の向上を目指す。

カ　特別支援教育の推進

・生徒の実態に即した個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導に努める。
・研修等を通して特別な支援を必要とする生徒の理解を深め、個に応じた指導に生かす。
・情報交換を密にし、生徒のよさや成長を共有しながら、将来の自立を目指した教育を推進する。

キ　全校体制で取り組む生徒指導

・生徒と触れ合う機会を多くし、小さな変化やサインを見逃さずに声かけや相談、支援や指導を

継続することにより、相互の信頼関係の上に立ったきめ細かな生徒指導を進める。
・教職員相互、ＳＣ、ＳＳＷ、関係機関との連携を密にし、いじめや不登校、問題行動などの早期発見・早期対応を図る。また、役割分担を明確にして、学校ぐるみで解決に取り組む。
・生徒会活動を中心とした自発的・自治的な活動を充実させ、よりよい集団づくりを通して生徒の社会性を育む。
・定期的に生活アンケートを実施し、生徒の悩みの早期解決を図る。

ク　コミュニティスクールの実践

・学校運営協議会の充実を図る。
・地域の方々と協力することで、生徒にとって、よりよい教育環境と支援体制の構築を図る。
・地域の方々と触れ合う機会を増やすことで郷土に誇りと愛着をもつ生徒を育てる。

３　学校目標

「主体的に考えて実行する力の育成　～基礎基本の定着から～」

重点施策

（１）基本的な学習内容・生活習慣の定着

○基礎・基本の必要性を主体的に考えさせる。
○定着を図るための目標・方法を考えさせて実行させる。
○各種テスト等において確認（評価・振り返り）し定着を図る。
○家庭との連携（情報共有・啓蒙）を図る。

（２）自己マネジメント力の育成（学校生活全般で）

○生徒自らが、自分の特性等を理解する。（自己理解を図る。）
○自分を伸ばすためにどうするべきか目標・方策を考えさせ（計画を立てる）実行させる。
○確認（振り返り）し定着を図る
○地域とのつながりの中で、キャリア学習を推進し、将来の自分の在り方を考えさせる。

（３）安心して生活できる集団づくり

○学習環境の整備を行う。
○生徒の居場所づくりに努める。
○生徒指導の充実（調査・相談）を図る。
○家庭との連携を密にし情報の共有を図る。
○教育委員会・SC、SSW、センター（学校教育・子ども支援）、医療機関等との連携を進める。

〔評価基準〕次の生徒・教師・保護者アンケートの結果で「そう思う」「少しそう思う」の割合の合計が８０％以上であれば「おおむね達成」と判断する。

	生徒視点のアンケート項目
重点施策（１） ◎生徒・教師・保護者アンケートによる評価	①学校の勉強は楽しいと思いますか。 ②家庭での時間を有効に使って学習（宿題、自主勉強、読書など）に取り組んでいますか。 ③家庭で、就寝時間を守ったり、朝食を取るなどの生活習慣が守られていますか。 ④基礎学力テストで合格点をとることができましたか
重点施策（２） ◎生徒・教師・保護者アンケートによる評価	①自分の健康管理を行っていますか。 ②自分の感情をコントロールし、仲間と話合いで問題の解決を図ることができますか。 ③将来の夢や目標をもっていますか。 ④様々な活動において、目標を明確にもち、その達成に向けて計画的に取り組んでいますか。 ⑤自分自身の特性を理解していますか。（自己理解）
重点施策（３） ◎生徒・教師・保護者アンケートによる評価	①人が困っているときは進んで助けようとしますか。 ②周りの人は、あなたのよいところや努力を認めてくれていると思いますか。 ③学級では、安心して生活できていますか。 ④悩み事があったときに、相談できる環境がある（人がいる）と思いますか。

４　学区の特色

（１）　新入生は南郷小学校からの入学となっている。学区は旧４小学校区から成り立っており、遠距離の通学生のために、一部スクールバスが運行されている。自転車通学も認めている。

（２）　「ジャズと蕎麦の郷」として地域振興を図っている。毎年７月にジャズフェスが開催される。本校にはジャズバンド部があり、例年フェスティバルのほか各種イベントに出演している。

（３）　高校通学は遠距離通学となっている。よって、通学方法も進学先選択の大きな要素になっている。隣接学区となっている、軽米高校への進学者もいる。